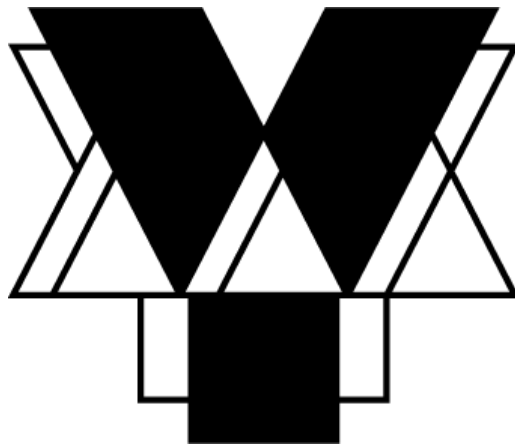


平成29年度

事業計画書



2017年（平成29年）3月

公益財団法人 横浜市体育協会

【 目 次 】

I 事業方針	1
II 事業計画	1
1 競技スポーツの推進事業【定款第4条第1項第1号、第4号】	1
2 生涯スポーツ推進事業【定款第4条第1項第1号、第5号】	3
3 健康・体力づくり事業【定款第4条第1項第1号、第3号】	4
4 障害者スポーツ等支援事業【定款第4条第1項第5号】	5
5 スポーツ人材の養成・育成・活用事業【定款第4条第1項第1号、第4号】	6
6 スポーツ情報の収集・提供/調査研究【定款第4条第1項第2号】	7
7 スポーツ施設運営事業【定款第4条第1項第5号】	8
8 スポーツ団体等育成事業【定款第4条第1項第1号】	13
9 協会運営事業【定款第4条第1項第6号】	13

I 事業方針

《事業の総仕上げとその成果を振り返る一年》

平成 29 年度は、第 3 期中期計画の最終年度として、事業の総仕上げとその成果を振り返る大切な一年になります。スポーツセンター等多くの指定管理施設では、第 3 期指定管理者として、さらには、当協会ですら建設した施設である神奈川スケートリンク（愛称「横浜銀行アイスアリーナ」）の運営者として 2 年目を迎え、市民の皆様に地域のスポーツ振興の拠点としてご満足いただけるよう職員一同、より一層努力してまいります。

世界トライアスロンシリーズ横浜大会や横浜マラソン 2017 等の大規模スポーツイベントを開催し、市民の皆様がトップアスリートに触れる機会を増やし、スポーツに親しむ機会を拡充してまいります。

また、当協会が管理する日産スタジアムが、ラグビーワールドカップ 2019™と東京 2020 オリンピック・パラリンピックという世界的スポーツイベントの会場に決定したことは、より一層のスポーツ振興の好機ととらえておりますので、当協会の理念である「いつまでもスポーツが楽しめる 明るく豊かな社会の実現」を進めるため、加盟する 74 の競技団体、学校団体、地域団体及び体育団体の皆様と力を合わせ、横浜のスポーツの更なる発展に邁進してまいります。

II 事業計画

1 競技スポーツの推進事業【定款第 4 条第 1 項第 1 号、第 4 号】

(1) 競技スポーツ助成事業

加盟競技団体や加盟地域団体等が主管する各競技会・大会等の活動に対して必要な支援・助成を行い、市民が競技スポーツを始めるきっかけづくりと、継続への取組を行います。

ア 第 14 回都市間交流スポーツ大会

（開催地：神戸市 実施競技数：10 競技 参加予定人数：1,000 人）

イ 市民体育大会（実施競技数：35 競技 参加予定人数：30,000 人）

ウ 市民マスターズスポーツ大会（実施競技数：28 競技 参加予定人数：9,000 人）

エ 各区交流スポーツ大会（実施競技数：8 競技 参加予定人数：1,900 人）

オ 合同強化練習事業（実施事業数：17 競技 参加予定人数：1,800 人）

カ ジュニア陸上競技教室（参加予定人数：2,300 人）

陸上競技の普及・啓発を図ることを目的に、小学生から高校生を対象に、参加者のレベルに合った種目別の練習により、楽しさを理解してもらえるような教室を実施します。

(2)各種スポーツ競技大会支援事業

競技会・大会の開催を円滑に行うため、大会運営組織への参画等を通して支援活動を行います。

ア 2017 世界トライアスロンシリーズ(WTS)横浜大会(2017 世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会)

トライアスロン最高峰の国際大会
横浜・山下公園をスタート、フィニッシュにした特設コース

① エリートパラの部(トップアスリートの大会)

開催日：平成 29 年 5 月 13 日(土) 開催予定

参加予定人数：70 人

② エリートの部(トップアスリートの大会)

開催日：平成 29 年 5 月 13 日(土) 開催予定

参加予定人数：120 人

③ エイジの部(一般参加の大会)

開催日：平成 29 年 5 月 14 日(日) 開催予定

参加予定人数：1,640 人

イ 第8回横浜シーサイドトライアスロン大会(横浜シーサイドトライアスロン大会実行委員会)

開催日：平成 29 年 9 月 24 日(日) 開催予定

会場：横浜市海の公園、横浜・八景島シーパラダイス、金沢工業団地周辺コース

参加予定人数：1,000 人

ウ 横浜マラソン 2017(横浜マラソン組織委員会)

開催日：平成 29 年 10 月 29 日(日) 開催予定

会場：パシフィコ横浜をスタート・フィニッシュの会場とし、市内中心部の観光名所や横浜港の風景を楽しめる横浜ならではのコース

種目：フルマラソンほか

参加予定人数：28,000 人

(3)スポーツ大会派遣事業

競技会・大会への選手派遣、選手選考に必要な支援・助成をします。

ア 第 72 回市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会

開催日：平成 30 年 2 月 開催予定

会場：秦野～相模湖

参加予定人数：横浜市選手団 20 人、横浜市走路員 20 人

イ 全国健康福祉祭大会(ねんりんピック)参加選手選考

開催日：平成 29 年 4 月 実施予定

実施競技種目：9 競技

参加予定人数：200 人

(4) 競技選手の個別支援

国体参加選手のメディカルチェック、競技選手のSPS(スポーツ版人間ドック)・体力測定・スキルチェック、スポーツによる障害の治療、リハビリテーション、予防等を行います。

2 生涯スポーツ推進事業【定款第4条第1項第1号、第5号】

(1) 地域スポーツ連携事業の実施

ア 区体育協会等の地域団体との連携

日頃から区民に密着した活動を行っている区体育協会と連携して、各区のスポーツ振興を支援します。また、スポーツ推進委員や地域のさまざまなスポーツ関連団体などとも連携し、スポーツ活動の活性化に寄与します。

イ 総合型地域スポーツクラブ育成支援事業(参加予定人数 390,000人)

さまざまな世代の方々が、身近な地域で気軽にいろいろなスポーツが楽しめる環境づくりを目指し、「総合型地域スポーツクラブ」を育成・支援します。

ウ ヨコハマさわやかスポーツの普及(参加予定人数 275,000人)

市民一人ひとりが体力や興味に応じてスポーツ活動を楽しみ、健康体力づくりの維持増進を図っていくために、いつでも気軽にできるさわやかスポーツの普及・振興を進めます。また、さわやかスポーツが発足し30周年を迎えるにあたり、これを記念して、横浜市民を対象としたさわやかスポーツ体験イベント(9月・12月予定)を開催することで、さらなる普及・振興につなげてまいります。

エ 横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバルの開催

(会場:市内38か所、参加予定人数:65,000人)

10月の体育の日を中心に、各区スポーツセンター、市内野外活動施設及び大規模施設等において、市民が気軽に各種スポーツに参加できる「横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル2017」を開催します。

(2) スポーツイベントの実施

スポーツの普及振興を図るため、各種スポーツイベントを開催します。

ア フィットネスヨコハマ

開催日:平成29年6月11日(日)

会場:パシフィコ横浜国立大ホール

参加予定人数:7,000人

イ YOKOHAMA ビーチスポーツフェスタ

開催日:平成29年7月29日(土)、30日(日)、8月5日(土)、6日(日)

種目:ビーチバレー、ビーチサッカー、ビーチハンドボール、ビーチテニス

会場:海の公園ビーチ(横浜市金沢区)

参加予定人数:8,000人

ウ 秋のウォーキングイベント(仮称)【新規】

開催日：平成 29 年 11 月

内 容：横浜の特徴ある地点をチェックポイントとして設定し、クイズや風景の撮影等を楽しみながら、ウォークラリーに参加するイベントを開催します。

参加予定人数：2,000 人

エ よこはまシティウォーク

開催日：平成 30 年 3 月 21 日（水・祝）

種目：ウォーキング（10km・15km・20km・30km コース）

スタート及びゴール：みなとみらい線馬車道駅

参加予定人数：3,200 人

3 健康・体力づくり事業【定款第 4 条第 1 項第 1 号、第 3 号】

(1)子どもの体力向上事業

地域のスポーツ団体やボランティア等と協力し、学校などの身近な場所で子どもの体力向上支援事業を実施します。

ア 子どもの体力向上支援(延参加予定人数:74,000 人)

体を動かす楽しさを知ること、次世代を担う子ども達が心身ともに健全に発達し、生涯を通じてスポーツに親しめるきっかけづくりとなるよう、児童向けの子どもの体力向上につながる事業を幅広く実施します。

イ はつらつキンダー事業(延参加予定人数:3,300 人)

運動・遊びを通して、幼児期に何事にも積極的に取り組む意欲と、豊かな人間性を育むことを目的とし、生涯にわたって運動・スポーツを楽しむきっかけづくりとします。

ウ スポーツ少年団

市内のスポーツ少年団の普及と育成及び活動の活性化を進めながら、スポーツを通じた青少年の心身の健全な育成と、生涯スポーツの普及・振興を図ります。

エ よこはまこどもマリンスクール(参加予定人数;176 人)

やさしく、強い“はまっ子”を育てることを目的として、横浜市内在住、在学の小学 4～6 年生を対象に、帆船日本丸や南伊豆臨海学園などの海に隣接する施設を活用し、1 年間を通して水泳・カッター操船などの実技、集団生活を通じた自主性・協調性の養成など心身の鍛練を行います。

オ 学校支援事業(参加予定人数:6,000 人)

当協会加盟競技団体やプロスポーツチーム、オリンピック・パラリンピアン等との連携・協力により、児童・生徒のスポーツ活動を支援します。

(2)健康づくり支援事業

超高齢社会の中、元気な高齢者を増やし、高齢になっても生き生きとした生活を維持することができる環境を整え、スポーツ・運動を習慣化するために各種事業を実施します。

ア 健康づくり派遣指導事業(参加予定人数 22,817人)

「地域における健康づくり」をキーワードに、①日常的な運動習慣を習得できるプログラムの提供、②地域と協働した健康づくりを主軸として、地域に根差した指導を進めます。また、横浜市健康福祉局からの介護予防関連事業を積極的に受けることで、市民の健康づくりに寄与します。

イ 健康づくり販売事業

市民における運動・スポーツの日常化を目的に、はまちゃん体操関連商品(CD・テキスト)や介護予防テキスト・ひばりエクササイズ(DVD)のPR・販売を行います。

ウ 健康づくりプログラム開発事業(参加予定人数 1,000人)

当協会の管理運営施設や、区役所、地域施設、地域団体等が主催する「スポーツ事業」「健康づくり事業」において、当協会オリジナルの運動プログラムを開発し、地域の健康づくりを図ります。

(3)生活習慣病予防事業

メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドロームの予防のための生活指導、栄養指導、運動等を行い、運動習慣をつけることにより健康の維持、増進を図ります。

4 障害者スポーツ等支援事業【定款第4条第1項第5号】

(1)横浜こどもスポーツ基金活用事業

ア スポーツ助成事業

障害のある子ども達や恵まれない環境にある子ども達を対象に、大会・イベント等を開催する主催者からの申請により、審査のうえ必要経費の全部又は一部を助成します。

イ スポーツ活動支援事業

障害のある子ども達や恵まれない環境にある子ども達が、日常的にスポーツ活動が出来る機会を提供する事業や現在活躍している障害者アスリートや、今後活躍が期待できるジュニアの障害者アスリートの活動を支援します。

ウ 普及啓発事業

障害者スポーツの普及・啓発と横浜こどもスポーツ基金を広く知らしめるために、基金事務局である当協会が主体となって、啓発イベントや広報・PR活動の実施、チャリティー活動や障害者スポーツに関する意識調査等を行います。

(2)障害者スポーツ団体等との連携強化

ア みんなのスポーツ事業【新規】

各区の体育協会、ヨコハマさわやかスポーツ普及委員会及び総合型地域スポーツクラブ等の地域で活動している団体と連携し、障害者と健常者が身近な地域で共にスポーツに親しむことができる取組を支援します。

イ 他団体との連携事業

横浜ラポール・横浜ゆるスポーツ協会など関係機関・団体と連携・協力し、スポーツ事業の実施や自主的活動の支援を進め、障害者スポーツの推進を図ります。

5 スポーツ人材の養成・育成・活用事業【定款第4条第1項第1号、第4号】

(1)地域スポーツ指導者養成事業の実施

ア 横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座の開催

スポーツ及びレクリエーションなどの活動を通じて市民の健康・体力づくりを支援するため、さまざまな講座を開催して地域に根差した指導者を育成します。また、各養成講座修了者が登録する「横浜市スポーツ人材活用システム」登録者の指導技術向上のためのスキルアップ研修を年3回実施します。

講習会名	実施期間	会場	参加予定人数
健康・体力づくりインストラクター養成講座	6月～1月	スポーツ医科学センター他	40人
地域クラブアシスタントマネージャー養成講座 (日本体育協会公認)	7月～10月	スポーツ医科学センター他	40人
アウトドアリーダー(野外活動指導者養成)講座	6月～1月	市内野外活動センター他	30人
レクリエーション人材養成講座	6月～10月	当協会地下会議室 他	30人
スポーツリーダー講習会(日本体育協会公認)	6月	スポーツ医科学センター	100人
地域スポーツ研修	1月	スポーツ医科学センター	100人

イ 協会認定指導者育成講座の開催(参加予定人数 150人)

横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座を修了した地域指導者やすでに地域で活躍している指導者のレベルアップを図る目的で、育成講座を開催します。講座に参加された地域指導者は当協会において認定し、さらなる活躍を目指します。

・横浜姿勢歩行運動指導員 等

ウ 地域スポーツ指導者の活動促進

地域における多様なスポーツ活動や、健康の維持増進事業、高齢者の介護予防事業、子どもの体力向上事業など、当協会が行う各種事業に「横浜市スポーツ人材活用システム」登録者を指導者として積極的に登用し、活躍・活動の場を促進します。

(2)指導者技術向上補助事業の実施

競技スポーツの指導・競技・審判技術などの向上を目的に、当協会加盟の種目団体が開催する研修会等に、経費の一部を助成します。

(3)ジュニアスポーツ指導者の養成

ア 横浜市ジュニア競技力向上事業

ジュニアスポーツ選手の養成のための強化練習やスポーツ医科学に基づくプログラムの作成を行います。また、競技指導者の能力向上を図るためスポーツ医科学の知識を備えたジュニアスポーツ指導者の養成を図ります。

イ 未来のスポーツリーダー養成事業

将来のスポーツ界を担う人材を育成するため、スポーツ障害予防やスポーツ栄養学などの講義を行います。

(4)横浜市スポーツボランティアセンター(仮称)の立ち上げ【新規】

本市では、毎年開催されている「横浜マラソン」に加えて、2019年の「ラグビーワールドカップ 2019™」の開催や、2020年には「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」が開催されるなど、横浜を会場とした多くの大規模スポーツイベントが開催されます。

これら大会を契機に、市民のスポーツ活動を支える『横浜市スポーツボランティアセンター(仮称)』を設置し、市民が積極的・自発的にスポーツに関われる体制作りやその支援を行っていきます。

6 スポーツ情報の収集・提供/調査研究【定款第4条第1項第2号】

(1)スポーツ情報の収集・提供

ア スポーツ情報センターの運営

横浜のスポーツ情報全般の収集と提供を、窓口・電話・インターネット等を通じて積極的に行います。

また、市内のスポーツ情報の発信拠点として、「する」「見る」「支える」すべての人によって有益な情報を集約し、適宜発信することで、スポーツへの関心や実施率を高め、健康な市民生活を支援します。

イ スポーツ情報サイト「ハマスポ」の運営・拡充

スポーツ情報サイト「ハマスポ」により、横浜市内の最新のスポーツ・レクリエーション情報を幅広く収集・掲載・提供します。

ウ スポーツ情報誌「SPORTSよこはま」の発行

生涯スポーツの普及・振興や横浜に拠点を置くプロスポーツチームの応援、市民の健康づくりの普及・振興を図るため、「横浜」と「スポーツ・健康」をキーワード

とし、スポーツへの興味・関心の喚起や健康意識の向上につながる情報を発信します。

また、横浜の推奨するスポーツ施策を紹介し、それを担う横浜市体育協会の各種事業を積極的にPRします。

発行；隔月6回（1号あたり30,000部、16ページ）

◆掲載内容

時節や流行に則した特集記事の掲載、市内プロスポーツチームの選手や関連イベントの紹介
スポーツ医科学センターによる健康関連情報の掲載、著名人のインタビュー、
地域スポーツ活動や生涯スポーツへの取り組みの紹介、市体協関連イベントの紹介や報告 等

(2) スポーツに関する調査研究

市民スポーツ意識調査等のスポーツに関係した調査・研究を通じ、横浜市スポーツ推進計画等で掲げられている、運動・スポーツの実施率や取組等について、横浜市における現状を把握します。また、市民の運動・スポーツに対する様々なニーズや行動・意識を考察し、その結果を当協会が取り組む各種事業に反映させます。

(3) スポーツ医科学に関する情報の収集・提供及び調査研究

スポーツ医科学に関する情報の収集を行い、「ハマスポ」や「SPORTSよこはま」により市民へ提供します。また、横浜市スポーツ医科学センターでは、学会等を通じて、スポーツ障害と予防等の研究及び研究の成果を発表してまいります。

7 スポーツ施設運営事業【定款第4条第1項第5号】

(1) スポーツ・レクリエーション活動に親しむことのできる場の提供

以下の施設の安全・安心な管理・運営を通して、市民にスポーツ・レクリエーション活動に親しむことのできる場を提供します。

ア 指定管理施設の管理運営

○横浜市スポーツセンター（16施設）

- ・横浜市鶴見スポーツセンター
- ・横浜市西スポーツセンター
- ・横浜市南スポーツセンター
- ・横浜市保土ヶ谷スポーツセンター
- ・横浜市磯子スポーツセンター
- ・横浜市緑スポーツセンター
- ・横浜市戸塚スポーツセンター
- ・横浜市泉スポーツセンター
- ・横浜市神奈川スポーツセンター
- ・横浜市中スポーツセンター
- ・横浜市港南スポーツセンター
- ・横浜市旭スポーツセンター
- ・横浜市金沢スポーツセンター
- ・横浜市都筑スポーツセンター
- ・横浜市栄スポーツセンター
- ・横浜市瀬谷スポーツセンター

○横浜国際プール

○横浜文化体育館

○横浜市平沼記念体育館

- 横浜市青少年野外活動センター（3施設）
 - ・横浜市三ツ沢公園青少年野外活動センター
 - ・横浜市くろがね青少年野外活動センター
 - ・横浜市こども自然公園青少年野外活動センター
- 横浜市少年自然の家（2施設）
 - ・横浜市少年自然の家南伊豆臨海学園
 - ・横浜市少年自然の家赤城林間学園
- 新横浜公園/日産スタジアム
- 三ツ沢公園
- 横浜市スポーツ医科学センター
- 横浜市栄公会堂

イ その他のスポーツ施設の管理運営

- 屋外プール（1施設）
 - ・横浜プールセンター
- 屋内プール（5施設）
 - ・旭プール
 - ・栄プール
 - ・保土ヶ谷プール
 - ・都筑プール
 - ・リネット金沢
- テニスガーデン（3施設）
 - ・根岸テニスガーデン
 - ・緑テニスガーデン
 - ・泉中央テニスガーデン
- 横浜市鶴見川漕艇場
- たきがしら会館
- 横浜銀行アイスアリーナ
- 横浜みなとみらいスポーツパーク（暫定運営）

(2) スポーツ・レクリエーション活動に親しむことのできる機会の提供

横浜市から指定を受けたスポーツ施設やスポーツ医科学施設及びその他の施設において、誰でも気軽にスポーツ・レクリエーション活動に親しむことのできる各種プログラムを提供します。

ア 指定管理施設

横浜市スポーツセンター

スポーツセンター16館（港北区及び青葉区を除く）において、区民が身近なところで気軽にスポーツを楽しみ、健康の維持増進に努めることのできるよう、スポーツ・レクリエーション活動を推進します。

横浜国際プール

2年目を迎えた国内最高峰のプロバスケット「Bリーグ」の横浜ビー・コルセアーズのホームゲーム26試合のほか、日本学生選手権水球競技大会（インカレ）などの大規模大会を予定しています。また、2020年の英国オリンピック・パラリンピック代表選手の事前キャンプ地として準備を進めるとともに、プール・アリーナ・テニスコート等で多種多様なスポーツ・文化教室を開催するなど、スポーツ・レクリエーション活動を推進し、多くの市民に親しまれる施設として、スポーツの振興や健康づくりに貢献する施設運営を進めます。

横浜文化体育館

地域、学校のスポーツ大会、各種目協会の国際及び全日本レベルのスポーツ大会を開催します。また各種集会・式典、コンサート等の文化的な催し物も開催し、横浜市のスポーツや文化の振興に寄与する施設運営を目指します。

なお、横浜文化体育館再整備事業への参画に向けて、積極的に取り組んでまいります。

横浜市平沼記念体育館

常設観覧席を264席有する特徴を活かし、スポーツ大会等の利用促進を行い、多くの市民に親しんでいただける施設づくりを進めます。

横浜市青少年野外活動センター

3施設それぞれの特長を活かした野外活動体験を通じ、青少年の健全育成を推進するだけでなく、子どもから大人までを対象に、利用ニーズにあわせた施設運営を行います。また、エコロジーを共通テーマとした「あったかエコキャンプ」を各施設で実施します。

横浜市少年自然の家

海や山などの恵まれた自然環境を活かした自然体験プログラムや宿泊体験の場を提供し、集団活動の体験等を通じた青少年の健全育成を図るほか、施設の特性を活かした自主事業の実施やイベントの誘致により、多くのお客様に親しまれる施設運営を行います。

新横浜公園/日産スタジアム等

市のスポーツ遺産（レガシー）に相応しい施設活用を目指し、国際大会やトップアーティストによるコンサート等の誘致を図ると同時に、公園内の各施設を活用し、地域スポーツの振興や市民の健康・体力づくりの一大拠点としての機能を発揮します。また、横浜市と緊密に連携を図り、ラグビーワールドカップ2019™の決勝戦会場、2020東京オリンピックサッカー競技会場利用に備えるための大規模な改修工事

の実施に向けて、横浜市と緊密に連携を図り、スタジアム利用スケジュール調整等を円滑に行います。

さらに、スポーツのみならず、公園の豊かな自然環境を活かしたイベントを町内会や学校をはじめとする地域の方々との連携により展開します。

○管理施設

- ・日産スタジアム(日本陸上競技連盟公認 第1種公認陸上競技場)
- ・日産フィールド小机(日本陸上競技連盟公認 第3種公認陸上競技場)
- ・日産ウォーターパーク(温水利用型の健康増進施設)
- ・北側園地運動施設(野球場、第1・2運動広場、球技場、投てき練習場、テニスコート)
- ・新横浜公園内無料施設(スケボー広場、インラインスケート広場1・2、バスケットボール広場、壁打ちテニスコート、草地広場、遊具広場)
- ・しんよこフットボールパーク(日本サッカー協会公認人工芝コート)
- ・ドッグラン(登録制)

三ツ沢公園

新横浜公園(日産スタジアム)との一体管理により、Jリーグ等の開催に加え、サッカーやラグビーの国際大会の大会誘致・実施を進めます。また、市民に身近な歴史ある運動公園として、スポーツを通じて園内の賑わいづくりや四季を感じながら気軽に体を動かすことができる機会の提供と運動施設の利用促進を図ります。指定管理2年目を迎え、多様化する利用ニーズに対応する魅力ある自主事業に積極的に取り組みます。

○管理施設

- ・ニッパツ三ツ沢球技場
- ・三ツ沢陸上競技場(日本陸上競技連盟公認 第2種公認陸上競技場)
- ・三ツ沢補助陸上競技場
- ・馬術練習場

横浜市スポーツ医科学センター

市民の健康づくりの推進・スポーツの振興・競技選手の競技力の向上を目的に、クリニック、アリーナ(体育館)、プール、トレーニングルーム等を併設した施設の運営を行います。

○スポーツプログラムサービス(SPS…スポーツ版人間ドック)

○クリニック(内科・循環器内科・整形外科・スポーツ整形外科・リハビリテーション科)

○メディカルエクササイズコース(MEC…運動療法)

- トレーニングルーム・25m 室内温水プールの個人利用
- 研修室・会議室、大・小アリーナの貸出事業
- スポーツ教室事業(体操・水泳等)
- 健康教室事業(太極拳・フラダンス等)、イベント事業
- アスリート事業(アスリート測定等)

イ その他のスポーツ施設

屋外・屋内プール

安全・安心・快適に利用していただくために、日々の安全管理の徹底に努めるとともに、気軽に参加できる水泳教室やイベントなどを開催し、多くの市民の方々に愛着をもって利用していただける施設運営を行います。

テニスガーデン

テニススクールの開催や貸しコート運営を行い、市民に対してテニスをはじめとするスポーツ活動の場を提供します。

横浜市鶴見川漕艇場

ボート・カヌーの利用、貸出し等の管理運営を行い、初心者等を対象とした教室を開催して水上スポーツ・レクリエーションの普及・振興に寄与します。

たきがしら会館

プロバスケットボールチーム「横浜ビー・コルセアーズ」の練習場としての利用に供するとともに、近隣の地域住民や団体、企業などの利用を促進します。

横浜銀行アイスアリーナ

アイススケートの一般滑走や教室、発表会などの各種事業の開催により、アイススケートを親しむ機会と場を提供するほか、保全計画に基づき施設・設備の管理を進め、安全・安心な施設づくりに努めます。また、平成 30 年 1 月には第 73 回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技の会場となるため、同大会の円滑な運営に向けて準備を進めます。

横浜みなとみらいスポーツパーク

メインフィールド（105m×68m）、サブフィールド（83m×60m）の人工芝フィールドを備える「横浜みなとみらいスポーツパーク」の運営を行い、市民へのスポーツ活動の場を提供します。

8 スポーツ団体等育成事業【定款第4条第1項第1号】

(1) スポーツ団体育成事業

ア 交流事業

横浜市のスポーツの分野で活躍・功労のあった方々及びスポーツ関係者との交流促進のため、「第52回新春横浜スポーツ人の集い」を開催します。

開催日：平成30年1月26日（金）開催予定

会場：横浜文化体育館（予定）

参加予定人数：1,300人

イ スポーツ表彰事業

体育・スポーツの進歩発展及び価値ある研究調査をなした者や各種スポーツ大会において、顕著な成績をおさめた個人・団体やスポーツ振興に寄与した個人を表彰する横浜スポーツ表彰を実施します。また、教育委員会表彰等の各種表彰への推薦を行います。

ウ 協力町村来浜事業

少年自然の家が設置されている昭和村（群馬県）及び南伊豆町（静岡県）の小学校児童を対象に、横浜への理解を深めてもらうことを目的とした教育施設協力町村児童受入れ事業を実施します。（2町村での参加者合計数は、133人を予定）

エ プロスポーツ支援

横浜市内のプロスポーツ4チームが行うイベントへの協力や広報PRの支援など、各チームとの連携により、市民へのスポーツの普及振興を図る事業を実施します。

9 協会運営事業【定款第4条第1項第6号】

(1) 中期計画および協約

中期計画（平成27～29年度）で掲げる、次の4つの方向性に沿って各種事業活動を行います。また、中期計画目標および横浜市と共有する協約目標（平成27～29年度）の達成に向けて取り組みます。

【中期計画 方向性】

1	指定管理の確実な獲得と質（サービス）の向上
2	地域スポーツの振興に向けた地域支援の仕組みの再構築
3	協会の新たな軸となる事業の企画・立案・実施
4	人材育成と組織の強化

【中期計画目標・協約目標】

1	事業参加予定人数100万人以上、施設利用者数1,000万人以上にします
2	事業活動収入、支出に対する補助金以外の収入割合90%以上を維持します
3	職員のモチベーションを高め、組織の活性化を図るよう 人材育成計画を整備し、実施します
4	健全な経営を行うとともに、市の方針に合わせた施設管理や事業展開を行う

(2)危機管理体制の取組

市民が安全・安心・快適に施設を利用できるように、各施設の点検や職員に対する指導・研修を実施し、日常の危機管理体制の基礎を整えます。

また、日産スタジアムや横浜国際プール、横浜文化体育館における大規模イベントの開催にあたっては、特に主催者、関係機関との連携を徹底して危機管理体制を強化します。

(3)社会的責任に対する取組

ア 個人情報保護マネジメントシステム運用業務

プライバシーマーク（Pマーク）付与事業者として、個人情報保護マネジメントシステム（PMS）を引き続き維持・運用し、個人情報の保護を推進します。

イ 内部・外部監査業務

公益認定の条件である、情報開示の適正性を証明するため、また、公益法人会計基準(平成 20 年基準)への対応を正確かつ適正に行うため外部監査業務を専門家に委託して実施するとともに、内部統制機能を高めるため内部監査業務を実施します。

(4)賛助会員事業

協会の理念やそれに基づくさまざまな事業を、市民や企業に広くアピールし、その活動に賛同を得ることで、賛助会費や協賛金として自主財源の確保を目指します。

(5)広報PR事業

新聞等の媒体を活用した体育協会のPRや、協会ホームページによる管理運営施設や各種事業の案内、また、ディスクロージャーの観点から事業計画書や事業報告書等、協会が保有する情報の公開に努めます。

(6)専門委員会及び連絡協議会との連携

協会の事業を推進するために必要な専門委員会及び連絡協議会を設置し、加盟団体から選出された委員と連携し、協議・調整・調査及び研究を行います。

ア 専門委員会

- ・ 総務委員会
- ・ 競技委員会
- ・ 市民スポーツ委員会

イ 連絡協議会

- ・ 加盟団体代表者会議
- ・ 区体協代表者会議

(7) 創立100周年記念事業の準備活動

平成41(2029)年の創立100周年記念事業等の実施に向け、引き続き準備を行ってまいります。

(8) 基金の運用

ア ワールドカップ決勝戦開催記念基金の運用

横浜市からの補助金を基に、「2002 F I F A ワールドカップ」の決勝戦開催を記念した基金を、横浜市、横浜サッカー協会等で構成する運営委員会により運用します。

イ 横浜こどもスポーツ基金の運用

寄付を原資として、障害のある子ども、恵まれない環境の子ども達等へ、横浜のスポーツを通じて、支援・援助することを目的に「横浜こどもスポーツ基金」を運用します。また、ホームページによる啓発・事業報告等を実施してまいります。

(9) 駐車場の運営

横浜アリーナに近接する新横浜駐車場と鶴見区馬場に設けた月極駐車場の各運営を行います。得られた収益は、当協会の公益事業を実施する財源として充当します。

加 盟 団 体 一 覧

◆競技団体(52団体)

横浜野球協会	横浜市ソフトボール協会	横浜市カヌー協会
横浜野球連盟	横浜市体操協会	横浜市ゲートボール連合
横浜市テニス協会	横浜市ホッケー協会	NPO 横浜市ボート協会
NPO 横浜ソフトテニス協会	横浜市バドミントン協会	横浜市太極拳協会
一般社団法人横浜水泳協会	横浜バスケットボール協会	横浜市少林寺拳法連盟
横浜市卓球協会	NPO 横浜市馬術協会	横浜市ゴルフ協会
横浜市弓道協会	横浜市剣道連盟	横浜アイスホッケー連盟
一般社団法人横浜サッカー協会	横浜市アマチュアボクシング協会	横浜市インディアカ協会
横浜市ラグビーフットボール協会	横浜市レスリング協会	横浜市綱引連盟
横浜市陸上競技協会	横浜市クレール射撃協会	横浜市ダンススポーツ連盟
横浜市相撲連盟	横浜市ライフル射撃協会	横浜市合気道連盟
横浜ハンドボール協会	横浜市ウェイトリフティング協会	横浜市スポーツチャンバラ協会
横浜市山岳協会	横浜市なぎなた連盟	横浜市日本拳法連盟
横浜スキー協会	横浜市アーチェリー協会	横浜市バトン協会
横浜バレーボール協会	横浜市ボウリング協会	横浜市トリアスロン協会
横浜市柔道協会	横浜市空手道連盟	横浜市パワーリフティング協会
横浜市ヨット連盟	横浜アメリカンフットボール協会	横浜市グラウンド・ゴルフ協会
横浜市ターゲット・ハート・ゴルフ協会		

◆学校団体(3団体)

横浜市立小学校体育研究会	横浜市立中学校体育連盟	横浜地区高等学校体育連盟
--------------	-------------	--------------

◆地域団体(18団体)

鶴見区体育協会	保土ヶ谷区体育協会	青葉区体育協会
神奈川区体育協会	旭区体育協会	都筑区体育協会
西区体育協会	磯子区体育協会	戸塚区体育協会
中区体育協会	金沢区体育協会	栄区体育協会
南区体育協会	港北区体育協会	泉区体育協会
港南区体育協会	緑区体育協会	瀬谷区体育協会

◆体育団体(1団体)

横浜市レクリエーション連合 (構成団体)		
・横浜市フォークダンス協会	・日本ターゲットボール協会	・横浜市グループワーク・トレーニング協会
・横浜市民踊協会	・横浜市ペタンク協会	・横浜市スクエアダンス連絡協議会
・横浜レディーズ卓球連盟	・横浜レク・フラダンス市民の会	・よこはまレクリエーションの会
・横浜市オリエンティングリーダークラブ	・横浜市健康太極拳の会	・横浜市レクハーモニカの会明日葉
・横浜市レクリーダー協議会	・日本サーチウォーク協会	・横浜市シルバー体操・レクリエーション指導者連盟



YOKOHAMA 2017 MARATHON 横浜マラソン



公益財団法人横浜市体育協会
〒231-0015
横浜市中区尾上町6丁目81番地
ニッセイ横浜尾上町ビル内
TEL 045-640-0011(代表)
FAX 045-640-0021